

予報期間 9月29日から10月5日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 台風第26号については最新の台風予報を参照。
- 10月1日から2日にかけて、低気圧が発達しながらサハリン付近からオホーツク海へ進む。高気圧が華中から朝鮮半島付近へ移動する。
- 3日から4日にかけて、高気圧は日本海から日本の東へ移動し、低気圧が華北付近から日本海に進む。
- 5日は、低気圧が日本海を北東に進む。

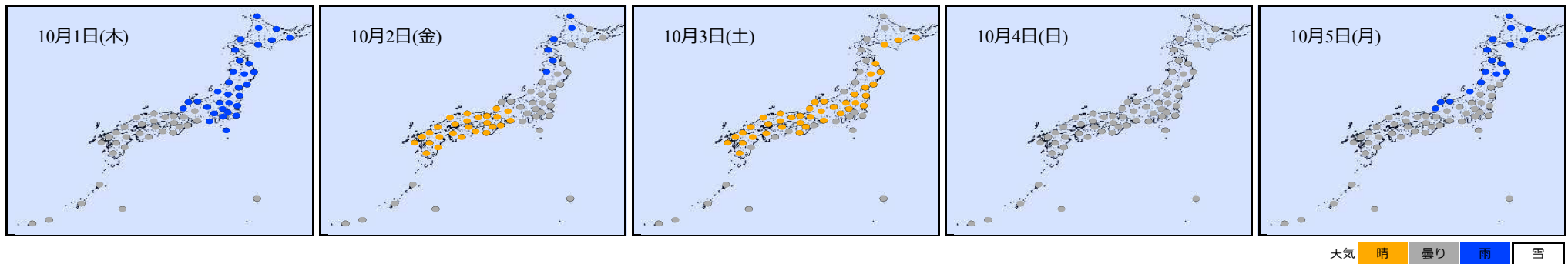
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 10月1日は、台風第26号の影響で、東日本太平洋側では荒れた天気や大しけとなる所があり、台風の進路等によっては警報級の大雨となるおそれがある。
- 2日頃は、発達する低気圧の影響で、北日本では荒れた天気となり、低気圧の発達の程度等によっては大荒れとなるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

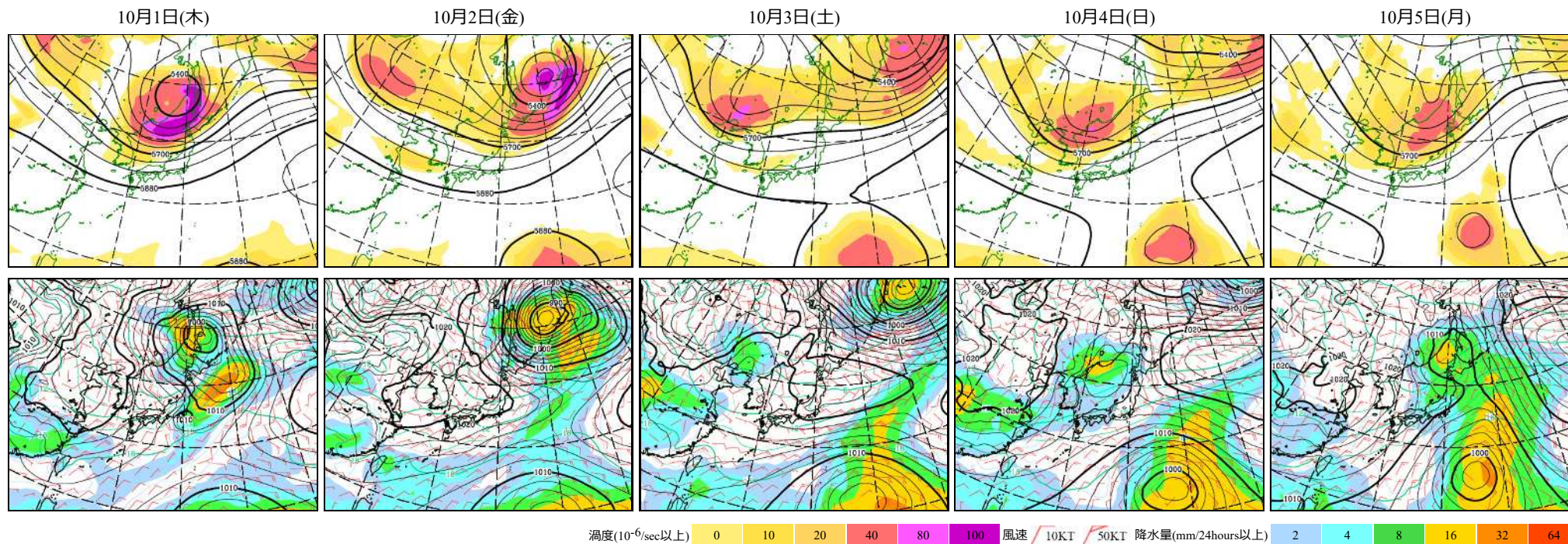
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

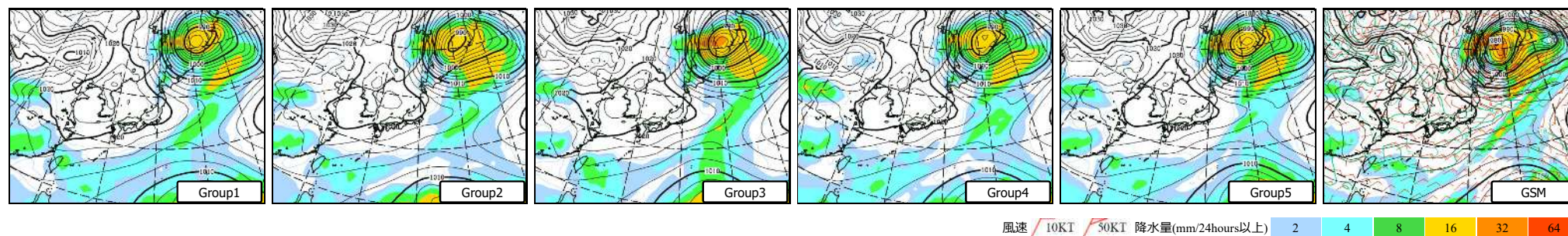


- 北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、10月3日は晴れる所がある。
- 東日本は、1日と5日は曇りや雨の降る所が多いが、2日から4日にかけては曇りまたは晴れの所が多い。
- 西日本は、1日から3日にかけては晴れまたは曇りの所が多く、4日と5日は曇りの所が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆10月2日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、10月1日から2日にかけて北日本を通過するトラフがやや深くなった。4日から5日頃に日本海に進むトラフは、やや深くなり、進みが遅くなった。地上の気圧配置は、2日から3日にかけて北日本に移動する高気圧が明瞭になった。4日は、低気圧が日本海に進む予想になった。
- 3日以降のトラフ、リッジの予想は海外モデルの初期値変わりが大きい。初期値変わりの結果、モデル間の差は昨日よりも小さくなった。
- 各モデルともに、1日から2日にかけて、低気圧が発達しながらサハリン付近からオホーツク海に進む予想をする。ENSも同様の予想をするメンバーが多い。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。